

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階)

## 出社再開ガイド

2020年7月 (7/8更新)

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

緊急事態宣言解除時の  
出社再開ガイドの適用

方針と想定

段階的出社再開の  
想定スケジュールとガイド（日本）

社員、お客様/訪問者および  
職場の準備

## 概要

当ガイドの目的は、新型コロナウイルスの感染拡大後、出社の最初の段階に関する実践的ガイドを提供することです。本ガイドは、2020年3月に全社員の95%をリモートワークに移行したIBMのグローバル企業としての経験に基づいています。

世界中で地域社会が再開に向けて動いている中、IBMの社員、協力会社様、およびお客様の健康と安全は、今後も変わることなくIBMの最優先事項です。

IBMは、公衆衛生と政府の規制、そして新型コロナウイルスへの感染の可能性が依然としてある中で、現状に適切に対処していきこうとしています。IBMは、社員を保護するためにデータと実証に基づく手法とポリシーを用いて、職場に戻すための段階的なアプローチを導入しています。

当ガイドでは、宣言解除後の出社の最初の段階に関する検討事項の要約をWave 1(第一段階)として示します。当ガイドの作成においては、感染する可能性が継続的に高く新たな感染拡大が発生があり得ること、感染を迅速に判定する検査と免疫の獲得を証明する抗体検査の数が限られていること、および強力な接触追跡が未だ広く使用されていない（ただし数週間または数カ月のうちに利用可能になる可能性が高い）ことを想定しています。

当ガイドの内容は以下の通りです。

- 状況分析
- 方針と想定
- 段階的出社（Wave）の想定スケジュールとガイド
- 社員、お客様/訪問者および職場の準備

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

緊急事態宣言解除時の  
出社再開ガイドの適用

## 方針と想定

段階的出社再開の  
想定スケジュールとガイド (日本)

社員、お客様/訪問者および  
職場の準備

# 出社再開について

## 状況分析

- 全世界のIBM社員の95%\*が自宅から業務を行っています (IBMインドの全社員の98%を含む)。一部の社員はリモートでは不可能な重要作業を行っているため、お客様の事業所およびIBM事業所で業務を続けています。
- 国や州および地域社会が在宅要請の段階的解除を開始し、各々の経済を再開し始める中、現地のIBM危機管理チーム (Crisis Management Team) と人事 安全衛生部門 (Corporate Health & Safety)は以下を行います。
  - 重要業務で出社している社員以外も対象として、事業所再開に向けた準備状況进行评估
  - 全拠点に、政府通達、公衆衛生当局のガイドライン (アメリカ疾病予防管理センター、世界保健機関等)、およびIBMのグローバルな方針と標準を適用し、全拠点において安全な職場環境を提供
  - 慎重かつ段階的に出社するための計画を作成

## 方針

- 主な検討事項：政府による在宅要請の解除、現地の臨床および公衆衛生データによる裏付け、お客様のプランを理解するための現地企業のベンチマーク、全社員の意向と労使関係。
  - 臨床：新規感染数について倍加速度で評価した時に、持続的かつ顕著な減速が見られるか (例：15日間の倍加速度について、増加しているか減少しているか)
  - 他の検討事項：公共交通機関、学校、サマーキャンプ、デイケア等のサービスの利用可能性
- IBMは、世界共通の基準を適用します。
- 社員は、データと実証に基づく手法とポリシーを用いて、段階的なアプローチによって職場に戻ります。Wave 1 (第一段階) では、大半の社員は在宅勤務を継続することになります。
- 出社する社員は、事業所で業務を行うことで生産性向上と革新的なメリットを得られる場合に選定され、マスクを着用してソーシャルディスタンス (人との物理的距離の確保) を実践します。
- 将来的な次の段階措置については、市場特有の健康およびポリシーの状況を慎重に評価することで決定します。リスクがある場合、または柔軟に業務を実施できる社員は、在宅勤務を継続いたします。

**IBMは、世界共通の標準を適用します。** コーポレート危機管理チーム (CCMT) は世界共通の標準を決定し、各国のCMTの主導による検討・実施内容を確認します。

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

## 安全を第一に4段階(Wave)で展開(日本)

<7/8 更新>

緊急事態宣言解除時の出社再開ガイドの適用

方針と想定

段階的出社再開の想定スケジュールとガイド(日本)

社員、お客様/訪問者および職場の準備

	Wave 0	移行 	Wave 1	Wave 2	Wave 3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況: COVID-19 感染拡大</li> <li>在宅勤務を要請</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>状況: COVID-19 感染者数が減少、曲線がなだらかになる</li> <li>段階的な社会経済活動の再開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況: 検査体制・接触者追跡の拡大</li> <li>治療の進歩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況: 検査、追跡、治療、医療の対応に関する継続的改善</li> </ul>
IBM予防策: マスク着用、職場でのソーシャルディスタンス	実施		実施	実施	実施
出社が必須の作業	実施		実施	実施	実施
在宅勤務(出社頻度)	実施		実施	実施 (出社率20%以下)	実施 (出社率40%以下)
お客様対応	Web会議を推奨		お客様ご訪問はお客様の対応状況に応じて検討	お客様ご訪問はお客様の対応状況に応じて検討	お客様ご訪問はお客様の対応状況に応じて検討
出張	厳しく制限		厳しく制限	地域と状況によって制限	出張は柔軟に許可(海外や長距離出張は制限あり)
会議	対面ではなくWeb会議		対面ではなくWeb会議	IBM予防策を徹底し50名未満は実施可能	50名以上は条件付き
イベント	リモート開催		リモート開催	未定	未定

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

緊急事態宣言解除時の  
出社再開ガイドの適用

方針と想定

段階的出社再開の  
想定スケジュールとガイド（日本）

社員、お客様/訪問者および  
職場の準備

## IBM事業所で社員とご訪問者の方の安全を守るための措置

- 新型コロナウイルスへの感染が疑われるケースに対応するための手順・ガイド
- 出社が必要な社員に毎日マスクを2枚提供し、常に着用するよう徹底する
- オフィス環境： デスクと座席レイアウト上の距離の確保、床に目印設置、密集・密接を解消するための措置、一部の共有エリアの閉鎖
- ビルサービス： 清掃の拡充、換気の強化、フード・デリバリー・サービスの変更
- 事業所の準備状況の確認
- ご訪問者の方への健康状況アンケート
- 協力会社様によるIBMプロトコルの遵守
- IBMとお客様における健康および安全基準の継続的な相互理解



# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

緊急事態宣言解除時の  
出社再開ガイドの適用

方針と想定

段階的出社再開の  
想定スケジュールとガイド (日本)

社員、お客様/訪問者および  
職場の準備

## 新たな職場安全規範

### 継続

- 感染が確認された場合、および疑われる場合の在宅措置の徹底
- お客様や協力会社様の事業所ご訪問の際の健康状況アンケート実施
- 2メートルのソーシャルディスタンス（人との物理的距離の確保）、握手禁止
- 個々人での予防徹底（例：頻繁な手洗いや咳エチケット）
- 対面を避けてWeb会議へ移行、接触の最小化
- 感染リスクがある場合、および学校または保育施設が利用できない子どもの育児のため在宅が必要な場合に、柔軟な働き方を提供



### 新規

- 自宅でのセルフスクリーニングや検温などの健康管理・確認（個々人で記録する）
- IBM支給のマスクを常時着用
- グループでなく、個々人で自席にて食事を取ることを推奨
- 自分がオフィスのどの部屋/フロアを使用したかを記録し、オフィス内でもあまり動き回らない（万一の感染時に消毒場所を特定するため）

# IBM Return to Workplace - Wave 1 (第一段階) 出社再開ガイド

緊急事態宣言解除時の  
出社再開ガイドの適用

方針と想定

段階的出社再開の  
想定スケジュールとガイド（日本）

社員、お客様/訪問者および  
職場の準備

## オフィス環境ガイド

要件は国によって異なる場合があります

- 個々の席ごとに従来より50%以上広いエリアを想定し、ソーシャルディスタンス（人との物理的距離の確保）を可能にする新しいオフィスレイアウト
- エレベーター、トイレ、および移動手段を含めた、ソーシャルディスタンスに対応するための拠点サービス、およびオフィス環境の再設計。可能な場合の階段使用の奨励などのガイド改定
- 密集・密接を解消するための動線の再設計と床の目印活用
- 往来や接触の多い場所、共有エリア、エレベーターのボタン、調理場、トイレ等に重点を置いた、清掃方法の拡充
- お客様ブリーフィング・センター、オーディトリウム、研修室、および大会議室の閉鎖
- カフェテリアでの混雑管理、接客係・レジ係と利用者との間の敷居、接触を避けた受け渡し、および間隔を取るための床の目印活用
- 換気の強化



